

国語科

国語科における指導の重点（身に付けさせたい力） ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 読むこと	イ 書くこと
文学的な文章において、叙述に基づいて登場人物の相互関係や心情などを捉える力を身に付ける。	自分の考えを明確にし、相手や目的、意図に応じて書き表し方を工夫して書く力を身に付ける。

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（2月）
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ・読むことでは、登場人物の相互関係や心情を捉えることはできるが、場面ごとの登場人物の行動を具体的に想像したり、文章の内容と自分の体験とを結び付けて感想をもったり、その感想を友達と共有したりすることに課題が見られる。ア ・書くことでは、促音や拗音を正しく表記したり正しい助詞を使ったりすることに個人差が見られる。また、経験したことや想像したことから書くことを見付けて書ける子、書くことが決まらない子の進度の差が大きい。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせを聞いたり物語を読んだりした際に、感想を伝えたり書いたりする活動を行い、スモールステップで感想をもたせるようにする。ア ・友達と感想を伝え合ったり、分かったことや考えたことを伝え合ったりする活動を行い、協働的に学ぶことのよさを感じられる授業を展開する。ア ・宿題や朝学習等で促音や拗音、助詞の正しい使い方をプリントで繰り返し学習する。イ ・書くことが決まらない児童には、「いつ、どこで、だれと、なにをした」がメモできるワークシートを用いて、個別に指導を行う。イ 	通年 適宜	
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を読み、登場人物の心情を考えたり、表現したりすることはできるが、どの部分の叙述からであるか明確にできない児童が多い。ア ・自分の考えを様々な言葉を使って書くことに課題のある児童がいる。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・心情を考えさせる学習では、叙述に注目できるように、サイドラインを引いたり、全体で確認したりする。ア ・普段から語彙が増やせるような活動を意識したり、読書に親しませたりする。また、作文指導や漢字の学習などの指導時に教科書巻末の「学びのとびら」を活用して振り返ることで基礎基本が定着するようにする。イ 	通年 通年	

<p>第3学年</p>	<ul style="list-style-type: none"> 人物の行動や情景、会話などの細かい表現に着目して読むことに課題のある児童がいる。㍿ 主語、述語が合わない文になったり、助詞の使い方を間違えたりする傾向がある。モデル文があれば書けるが、自分で考えて伝えたいことを構成して書くことが難しい。㍿ 	<ul style="list-style-type: none"> 細かい表現に着目できるよう、視点をはっきり示してから読ませたり、大事な言葉に注目できるようにサイドラインを引かせたりする。㍿ 家庭学習の機会を利用し、短い文章を書く機会を設けたり、書いた文章を声に出して読み返しをさせたりするなどして、間違いに気付く力を高める。(ペア学習など) 文を書く時に目的をはっきりさせ、構成させてから書くようにする。㍿ 	<p>通年</p> <p>通年</p>	
<p>第4学年</p>	<ul style="list-style-type: none"> 人物の気持ちを捉えることができるようになってきているが、その根拠が曖昧な場合がある。㍿ 主語と述語が合わない文になることや、文の構成が長くなったり、語彙が適切でなかったりすることがある。㍿ 	<ul style="list-style-type: none"> 文学的な文章の読み取りでは、登場人物の気持ちを読み取る際に、行動や会話に着目させるとともに、その性格や境遇にも着目させることで、根拠をもった読み取りができるよう指導を充実させる。㍿ 文章を書く場合には、句読点の適切な打ち方を指導する。また、主語と述語の関係を意識させ、一文が長くないように指導する。添削による個別の支援で書く力を高められるようにする。㍿ 	<p>通年</p>	
<p>第5学年</p>	<ul style="list-style-type: none"> 叙述を基に登場人物の心情を捉えることはできるが、情景描写や記述のつながりなどから心情を読み深めたり、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したりすることが難しい。㍿ 自分の考えを明確にもてない児童がいる。また、文章を書くこと自体に抵抗感を示す児童が一定数いる。㍿ 	<ul style="list-style-type: none"> 情景描写のつながりや、登場人物の行動、他の人物の心情等、読みの手掛かりとなる視点を明確に示すことにより、児童自ら読み深められるようにする。㍿ 作品や作者のテーマなど全体から見た視点を取り入れる。㍿ 自分の考えを言語化できるようなノート指導や付箋の活用などを取り入れ、段階的に指導を行う。㍿ 例を示したり、選択肢を与えたりすることにより、どのような文章構成がよいかを考えさせ、自分の文章に取り入れるようにさせる。㍿ 	<ul style="list-style-type: none"> 物語文 単元 読書旬間 通年 説明文 単元 	

<p>第6学年</p>	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の心情を想像することはできるが、叙述や情景に即して考えることには課題がある。ア 相手や目的、意図に応じて内容の中心を明確にして書くことにおいて課題がある児童が多い。自分の考えを整理し、根拠を明らかにしながら明確に書ける児童とそうでない児童差が大きい。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 単元の導入では児童の初発の読みから全体のめあてを考え、学習の見通しをもたせる。また、情景や叙述に即して考えさせるためには、考えの根拠を問う発問をし、文章中のどの叙述に着目したか、どの情景描写に着目したかを明確にする。ア ロイロノートを活用し、友達の書き方のよい点を参考にするなど、協働的な学びを取り入れる。その際、目的や意図に応じて詳しく書くことができている文章を紹介し、自分の書いた文章と比較させることで文章構成を確かなものにしていく。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 物語文単元 通年 説明文単元 	
-------------	---	---	--	--

■「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について

- 1年：ロイロノート等を使い自分の考えをまとめ、学級全体で共有できるようにする。その場で友達の考えを見ながら、多様な考えや深い学びにつながるようにする。
- 2年：ロイロノートの提出機能を使い、児童がそれぞれの考えを交流する場面を意図的に設定する。
- 3年：ロイロノートの提出機能を使い、児童がそれぞれの考えを確認したり、質問したり交流する場面を意図的に設定する。
- 4年：多様な考え方を引き出す発問や課題設定を行うとともに、ロイロノートを活用し、互いの考えを確認して、友達のよいところを自分の考えに取り入れられるようにする。
- 5年：児童によるめあての設定、学習計画の立案を行う。また、付箋を使った話し合いの工夫を取り入れる。ロイロノートを活用し、互いの考えを確認して、友達のよい考えを自分の考えに取り入れられるようにする。
- 6年：ロイロノートを活用し、互いの考えを共有して、友達のよい考えを自分の考えに取り入れられるようにする。

■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

- 1年：毎時間、学習のめあてを児童と共に考えたり、学習の終わりに学習の振り返りをさせたりすることで、次時への意欲につながるようにする。また、ノートを見て学習の振り返りができるように、ノートの書き方の習慣化を図る。本時の学習の流れを示し、児童が本時に見通しをもち、主体的に取り組めるようにする。
- 2年：自分の考えや分かったことなどを振り返る学習感想を書く時間を取るようにする。本時の学習の流れを示し、児童が本時に見通しをもち、主体的に取り組めるようにする。
- 3年：友達との学び合い後には、自分の考えの変化などを振り返る学習感想を書く時間を取るようにする。本時の学習の流れを示し、児童が本時に見通しをもち、主体的に取り組めるようにする。
- 4年：学習課題に対して目的を明確にしたり、必要性を感じさせたりする。終末に振り返りを行う。本時の学習の流れを示し、児童が本時に見通しをもち、主体的に取り組めるようにする。
- 5年：単元ごとの教師の指導の意図を基に、児童自身が学習のゴールを意識し、そのためのめあてを考え、単元の最後まで学びに向かっていけるよう配慮する。めあてを振り返るとともに、次時の学習の見通しをもつ。
- 6年：単元、学習ごとのめあてを児童と共に考える。また学習の終わりに振り返りをし、めあてを振り返るとともに、次時の学習の見通しをもつ。